

活動報告書

1. 事業内容

1、兵庫県尼崎市における第三の居場所（B）の運営（兵庫県尼崎市・3年目）

- (1) 期間：2020年4月～2021年3月（週5日、14時から21時まで開所）
- (2) 場所：兵庫県尼崎市
- (3) 対象：小学校低学年を中心に20名
- (4) 内容：「第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完する。

拠点にはソーシャルワークなどの専門スキルを備えたスタッフを配置し、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援する。

2. 事業内容詳細：

■居場所の運営

- ・スタッフの配置
- ・備品の購入、レイアウトの整備
- ・業務日誌の作成
- ・入退所時間の管理
- ・保護者との連絡帳のやりとり
- ・月に1回の保護者との面談

■生活習慣の形成のための支援

- ・手洗い・うがいの徹底
- ・夕食の提供
- ・おやつ提供
- ・入浴のサポート
- ・片付けの促し

■学習意欲の向上に関する支援

- ・スタッフによる学習支援
- ・学習達成状況に合わせた夕食リクエスト制度
- ・長期休み時の宿題計画の立て方の支援
- ・関連図書設置、閲覧

■文化的な経験機会の提供

- ・誕生日会の開催
- ・季節のイベントの実施（キャンプ、ハロウィン、クリスマス、豆まき）

■スタッフの育成

- ・月に1回のスタッフ会議
- ・日常運営の振り返り

■その他、メディア関連の対応

- ・メディアによる取材等の対応

3. 契約時事業目標の達成状況：

【助成契約書記載の目標】

1. 兵庫県尼崎市における第三の居場所（B）の運営（兵庫県尼崎市・3年目）

- (1) 拠点利用児童の募集（2019年10月時点で8名が登録しているところ、2020年度9月末時点で15名、年度末迄に20名とする）
- (2) 児童への居場所、食事、生活習慣支援、学習支援などの安定的な提供
- (3) ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築
- (4) 子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントなどの実施

【目標の達成状況】

1. 兵庫県尼崎市における第三の居場所（B）の運営（兵庫県尼崎市・3年目）

- (1) 拠点利用児童の募集（2019年10月時点で8名が登録しているところ、2020年度9月末時点で15名、年度末迄に20名とする）

（実績）2020年度9月末時点で15名、年度末時点で16名

- (2) 児童への居場所、食事、生活習慣支援、学習支援などの安定的な提供

（実績）いずれも安定的に提供できた。

- (3) ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築

（実績）学校や行政をはじめとする関係機関との定期的なケース会議の場を月に1～2回程度設けることができた。

- (4) 子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントなどの実施

（実績）夏ごろから、定期的に子ども会議を開催した。子どもたち同士での納得した上での合意形成の経験を積んだ

4. 事業実施によって得られた成果：

(1) 拠点利用児童の募集（2019年10月時点で8名が登録しているところ、2020年度9月末時点で15名、年度末迄に20名とする）

- ・2020年9月時点の中間目標については達成できたが、最終目標としていた20名には届かなかった。
- ・しかし、16名の子どもが登録し、安定的に日常支援をできたことはよかった。

(2) 児童への居場所、食事、生活習慣支援、学習支援などの安定的な提供

- ・新型コロナウイルスに振り回された1年であったが、子どもたち・保護者にとっても、拠点での夕食の時間が心の支えになっているように感じられた。
- ・好き嫌いや食事の際にマナーのことももちろんですが、落ち着いた雰囲気、みんなでおいしく食事をいただくことを通して、「食事」が楽しい時間になっているように感じられた。

(3) ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築

- ・これまでは、特に小学校とのケース会議の機会が多かったが、行政やその他の支援機関を交えてのケース会議の開催が多い1年であった。
- ・月に1~2回程度のペースで開催し、それぞれの関係機関でのようすの共有や今後の支援策について検討・実践をすることができた。
- ・また、児童だけでなく保護者支援をしている関係機関も加わり、児童だけでなく「家族をどう支援していくか」という目線で関係機関との協働が少しずつ進んで1年でもあった。

(4) 子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントなどの実施

- ・行事や催しなどについて、子どもたちが「自分たちで決める」機会をつくった。
- ・話し合いの場を設けることに加えて、話し合いについてのふりかえりを行い、経験からの学びを意識したアプローチも実践できた。
- ・合意形成や民主主義の価値観のベースを体験的に学ぶことで、「子ども会議」を子どもたちがやりたい！というようになったことも、大きな成果だと考えている。

5. 活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案：

○拠点を構えた日常支援の意味の再確認

- ・継続した生活支援を実施することで、利用児童だけでなく保護者等にも成長や変化が見られることを時間するとともに、まだまだ利用につなげることができていない家庭の多さに気付かされる。
- ・アウトリーチをするという方法もあるが、アウトリーチだけでは状況を大きく変えることは難しい。
- ・アウトリーチ→拠点の利用へとつなげるようなアプローチがより一層必要になると感じた。

事業成果物：

【成果物の名称】

【成果物がアップロードされているCANPANのURL】